

問題【国語】

日本の伝統芸能について次の問いに答えましょう。

- ①室町時代に観阿弥、世阿弥によって大成された仮面をつけて行う芸能は何か。
- ②もともとは①の劇の合間におこなわれていた庶民の生活を滑稽に描いた劇は何か。
- ③1600年頃、歌舞伎のもととなる「かぶき踊り」を創始した女性は誰か。

豆知識

雑学コラム

時代とともに進化

日本の伝統芸能というと、能、狂言、歌舞伎が連想されると思います。しかし、違いというとうまく説明できない人も多いと思います。今回はそんな伝統芸能についてみていきましょう。

まず、能についてです。能の起源は平安時代以降、寺社の祭事で行われていた出し物の猿楽と田植えの時に歌われていた田楽などの民間芸能で、観阿弥と世阿弥がまとめて作ったものが現代も続く能です。能の大きな特徴として、演者は能面という仮面をつけることが挙げられます。また、演じられる内容も、「源氏物語」など古典を題材にしたものが多いです。ちなみに、どんな時も初めのころの真剣さと謙虚さを忘れてはいけないという「初心忘るべからず」の慣用句は、世阿弥が能をする際の心得として書いた言葉です。

次に、狂言は、もともと能の合間に行われていた庶民の生活を滑稽に描いた劇のことで、能と一体となって演じられたものでした。能が悲劇的な古典を演じていたのに対して、日常生活を喜劇として滑稽に描いたもので、能とは違い基本的には仮面をかぶらずに演じる劇です。能と狂言は一緒に演じられることから、ひとまとめて「能楽」と呼ばれることもあります。

最後は歌舞伎です。能や狂言との一番の違いは成立した時代です。能や狂言が室町時代には存在していたのに対して、歌舞伎は1600年頃（江戸時代の初め）に出雲阿国が躍った「かぶき踊り」がもとになって生まれた劇になります。歌舞伎は江戸の町人たちの娯楽として発展しました。歌舞伎の看板の2枚目に美男子を載せたことから、ハンサムを表す「二枚目」という言葉が、3枚目に滑稽な役柄を演じる俳優を載せたことから「三枚目」という言葉が生まれるなど、今の芸能界にも通じる言葉が歌舞伎からたくさん生まれています。こうした面からも日本の芸能の基礎となっているものの一つということができそうですね。

さて、伝統芸能というと古いものを継承して続けているという印象が強いですが、新しい要素も取り入れられています。最近では漫画の「ワンピース」が歌舞伎で演じられ、また、コロナ禍でのネット配信も話題になりました。また、野村萬斎さんの狂言のセリフとして知られている「ややこしや」も、もともとは日本の古典ではなく、シェイクスピアの「間違いの喜劇」をもとに作られた「間違いの狂言」のセリフです。このように伝統芸能も時代に合わせて進化をしています。これからも伝統芸能の新しい形に期待していきたいですね。

【解答】

国語審判⑥

星我⑦

鴉①